

問1 ドイツの思想家ベンヤミンは、写真や映画などの複製技術の発展に伴う芸術の変容を論じた。彼が、複製技術の普及によって失われると指摘した、芸術作品が「いま・ここ」に存在することに由来する、唯一無二の神秘的な輝きや一回性のことを何と呼ぶか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. モード 2. コピー 3. アウラ 4. コード

問2 19世紀後半のドイツの思想家は、キリスト教的な価値観が崩壊したニヒリズムの時代において、目的も意味もなく同じことが無限に繰り返される「永劫回帰」という過酷な現実を提示した。この思想家が、このような虚無的な現実を「運命愛」によって肯定的に受け入れ、自らの「カへの意志」に従って新たな価値を創造していく存在として提示した、理想的な人間像を何と呼ぶか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 人格 2. 超人 3. 賢者 4. 紳士

問3 人間の魂における情念を理性の指導によってコントロールする「中庸」の徳を重視し、人間は本性的にポリスの（社会的）動物であるとして、他者との共同体において友愛や正義を実践し、共に善く生きることを説いた哲学者は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. アリストテレス 2. プロタゴラス 3. プラトン 4. ソクラテス

問4 リバタリアニズム（自由至上主義）を代表する思想家は、個人の自由や所有権を最優先に考える立場から、国家による強制的な課税を通じた富の再分配を不当な侵害として批判した。彼が主張した、国家の機能を防衛や治安維持、契約の履行などに限定し、それ以上の介入を行うべきではないとする国家のあり方を何というか。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 夜警国家 2. 法治国家 3. 福祉国家 4. 最小国家

問5 19世紀末から20世紀初頭にかけて、科学的・合理主義的な世界観に対して、生命の躍動や内面的な体験を重視する「生の哲学」が展開された。この潮流において、時間を空間的な目盛りとしてではなく、過去が現在に絶えず流れ込み蓄積していく「純粹持続」として捉え、人間の意識や人格は絶えず新しさを生み出しながら自己を創造し続けるプロセスであると主張したフランスの哲学者は誰か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. ハイデガー 2. ヤスパース 3. デルタイ 4. ベルクソン

問6 ルネサンス期には人間中心の文化が花開き、美術の分野でも人間性や肉体の美しさを写實的に表現する芸術家が活躍した。システナ礼拝堂の天井画『天地創造』や壁画『最後の審判』、彫刻『ダヴィデ像』などを制作し、ルネサンスの最盛期を代表する芸術家は誰か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. ブルネレスキ 2. ティツィアーノ 3. ボッティチェリ 4. ミケランジェロ

問7 知性を、人間が環境に適応し、直面する具体的な問題を解決して社会を改善していくための「道具」と捉え、民主的な社会の形成に向けた教育の重要性を説いたアメリカの思想家は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. パース 2. ジェームズ 3. ローティ 4. デューイ

問8 19世紀イギリスの思想家であり、著書『自由論』において、個人の行動の自由は他者に実害を及ぼさない限り制限されるべきではないという原則を提唱し、多数者の専制や国家による不当な干渉を批判した人物は誰か。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. J.S.ミル 2. K.マルクス 3. J.ベンサム 4. J.J.ルソー

問9 歴史の進歩や普遍的な社会正義を掲げて未来の理想社会を設計しようとする立場に対し、そうした全体的なシステムを批判し、目の前で苦しんでいる具体的な他者からの呼びかけに直接応答することに倫理の根源を見出す思想がある。このような、自己の枠組みを超えて迫ってくる「他者の顔」に対する無限の責任を説き、近代の主體的自己中心性を批判した現代の哲学者は誰か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. フッサール 2. ハイデガー 3. レヴィナス 4. ドゥルーズ

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 3 アウラ	複製技術の登場によって、オリジナルな芸術作品が持っていた「いま・ここ」にしかない一回性や本物性としての神秘的な輝きが失われると論じられた。この失われる輝きや一回性のことを「アウラ」と呼ぶ。アウラの消滅は、芸術作品の受容のあり方を儀礼的なものから展示的なものへと変化させ、大衆化を促したとされる。
問2	答え 2 超人	ニーチェは、キリスト教的道徳の崩壊によるニヒリズムを克服するため、既存の価値観に依存せず自ら価値を創造する主体を「超人」と呼んだ。超人は、世界が目的なく無限に繰り返される「永劫回帰」という過酷な現実を「運命愛」によって肯定し、自らの生を高めようとする「力への意志」に基づいて行動する。
問3	答え 1 アリストテレス	アリストテレスは、情念を理性によって適切に制御する「中庸」を倫理的徳（習性的徳）とした。また、人間を「ポリスの動物」と定義し、他者との交わりの中で「友愛（フィリア）」や「正義」を実践することが、最高善である幸福（エウダイモニア）に至るために不可欠であると説いた。
問4	答え 4 最小国家	ノージックは、ロールズの正義論などが肯定する福祉国家的な富の再分配を、個人の労働の成果を強制的に奪うものとして批判した。彼は、個人の自己所有権を徹底的に擁護し、国家の役割を暴力や盗難からの保護、契約の履行といった治安維持や防衛の機能だけに限定すべきだと主張した。これは「大きな政府」としての福祉国家に対比される概念である。
問5	答え 4 ベルクソン	科学技術の発展に伴う機械論的な人間観に対し、生命の根源的な躍動や主観的な時間のあり方を重視する「生の哲学」が興った。この思想家は、時計で測られるような空間化された時間とは異なる、意識の内面における「純粹持続」を提唱し、人間が過去の記憶を現在に融合させながら絶えず新しい自己を創造していくプロセスを重視した。
問6	答え 4 ミケランジェロ	彼は彫刻、絵画、建築など多分野で不朽の名作を残したルネサンス期の巨匠である。肉体の力強さや精神の葛藤を表現し、神中心の制約から解放された人間性の美を追求した。
問7	答え 4 デューイ	人間の知性を環境に適応し、直面する具体的な問題を解決するための有効な「道具」とみなす道具主義を提唱した。彼は、学校を一つの共同体と捉え、学習者が能動的に問題解決に取り組む「なすこと」によって学ぶ（ラーニング・バイ・ドゥーイング）」という教育論を展開し、民主主義社会の発展に貢献しようとした。
問8	答え 1 J.S.ミル	『自由論』を著したJ.S.ミル（ジョン・スチュアート・ミル）は、他者に危害を加えない限りにおいて個人の自由は最大限に尊重されるべきであるという「他者危害の原則」を唱えた。彼は、質的功利主義の立場から精神的快楽を重視するとともに、民主主義社会における「多数者の専制」が個人の個性を抑圧することに警鐘を鳴らした。
問9	答え 3 レヴィナス	全体性（普遍的なシステムや歴史の進歩）が他者を排除・抑圧することを批判し、自己の理解を超えた絶対的な他者（「顔」）からの呼びかけに対して、受動的に応答する責任こそが倫理の出発点であると主張した。この思想は、普遍的な正義の設計図を疑い、今ここにある具体的な他者の苦しみに向き合う実践を重視する立場と深く結びついている。